

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、1・2年次の進路学習のまとめとして志望理由書作成の観点を整理する「志望理由シート」について検討する。

志望理由 (学問グループ) \_\_\_\_\_ HRNO \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_  
あなたの現在の志望進路先 (学校・学部・学科など) とその理由を、具体的に書いてください。その際、次の内容を含めること。

志望先 \_\_\_\_\_

① 「将来取り組みたいテーマ」と、そう考えるようになった「きっかけ」と「動機」

・きっかけ (将来取り組みたいことに関心を持つようになった出来事や経験)

・動機 (その出来事や経験から感じたことや考えたこと)

② 志望先で何を学びたいか (社会との関わり方を意識して)

③ 志望先で学んだことを社会でどう生かしたいのか。

④ なぜその志望先でないといけないのか (志望先に対するこだわり、他の学校と比べてどんな特徴があるか)

# Before

静岡県立伊東高校  
稲葉 渉先生提供

「2年生 3学期  
志望理由シート」

## 課題

- 1 1・2年次の進路学習や過去の経験などにおける、自身のこれまでの学びや気づきを、将来の進路に結びつけて志望を語るができない生徒がいる
- 2 進路学習で生徒に考えさせてきた「社会とのかかわり」という観点をさらに生徒に意識させたい

## 検討メンバー



ツール提供者

静岡県立  
伊東高校

稲葉 渉

いなば・わたる



北海道  
北広島西高校

徳橋孝之

とくはし・たかゆき



群馬県立  
太田高校

新井高広

あらい・たかひろ

自己理解を深めながら  
志望理由書へつなげたい

静岡県立伊東高校では、2年生3学期に800字の志望理由書を作成する。それに向けて、1年次の学問研究、2年次の学部・学科研究の成果を具体的な志望に結びつけるため、冬季休業前に配布しているのが「志望理由シート」だ。生徒はこのシートに記入した上で担任との面談を行うが、志望理由がそれまでの進路学習の成果と結びついていない表面的な記述にとどまっていたり、将来、社会とどのようにかかわりながら生きていくのかということ意識できていなかったりする生徒もいる。自己と社会への理解を深められるよう、「志望理由シート」とその活用法の改善の必要性を感じていた。

# 2年生 3学期 志望理由シート

## After



改良ポイント

### 1 過去、現在、未来と 時系列に志望を深めさせる

最も興味・関心を持っていることについて、そのきっかけ、これまで取り組んできたこと、今後取り組むべきことと、過去→現在→未来のつながりで志望がどう固まってきたかを考えさせる。

### 2 社会への参画意識から 進路観に揺さぶりをかける

過去の経験からの志望の積み上げと並行して、社会問題を起点に進路を未来→現在と掘り下げる。興味・関心を軸に進路を考える際の切り口は、必ずしも1つではないことを生徒に実感させる。

## 志望理由シート

年	組	番	名前
---	---	---	----

①○をつけた項目について、興味・関心を持つきっかけとなった理由を書こう。  
※具体的な出来事があった場合はそれを交えて書こう。

②その項目について、今まで取り組んできたことを書こう。

③その項目について、これからの高校生活で取り組んでみたい、または取り組むべきだと考えていることを書こう。

**1 START** 興味・関心のあることをたくさん書き出そう。その中でも一番強く興味・関心を持っていることに○をつけよう。

**2 RESTART**  
社会が抱える課題などで気になっているものを書こう。一番強く興味・関心を持っているものに○をつけて、④から①へと逆の順番で考えてみよう。

**GOAL**  
その項目は、社会とどうつながっているのか。その項目への興味・関心を追究することで社会にどんな貢献ができるのかを書こう。

④その項目について、進学して取り組んでみたい、または取り組むべきだと考えていることを書こう。

★具体的な志望校が決まっている場合は大学・学部名を書こう。

次ページでは、  
3人の先生方の  
検討の様子を  
ダイジェストで紹介！

進路を考える観点を  
構造的に理解できる様式へ

志望理由書を作成する際のよりどころとなるものは、生徒一人ひとりの内面にある進路学習を始めたときの様々な経験である。過去の経験が礎となって進路が拓かれていくことを実感させるため、過去、現在、未来という時間軸を「志望理由シート」上でも明確にし、生徒が自身の中に眠っている進路の芽を段階的に掘り起こし、積み上げるプロセスを自覚できるような様式を目指した。また一方で、過去からの積み上げと並行して、今の時点で自分が抱えている現代社会への課題意識から大学で学べること、高校生のうちに取り組みべきこと……と掘り下げて考えさせることで、多様なアプローチで自分と進路を深められることを可視化した。

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」でご覧ください。

39 VIEW21 February 2018

## 2年生 3学期 志望理由シート



## 活用の流れ

1

これまでの  
学びや経験を振り返って、  
シートに記入させる

2

記入したシートを基に  
担任との面談で深め、  
教師は「なぜ?」を丁寧に問う

3

志望理由書にまとめる

ポートフォリオを使いこなす  
豊かな視点を生徒に育む

議論の中心になったのは、生徒が過去の経験を交えた自分らしい言葉で志望を語れるようになるための指導だ。2年生3学期に作成する志望理由書は、進路学習の一里塚であり、この時期に進路観を揺さぶることで、3年生の夏までに志望の軸をつくらせることができる。そのため、「志望理由シート」も埋めることを目的とするのではなく、自分自身のことを多面的に振り返るための材料として、思いついたことから書き出していけばよいということを確認した。また、身近な社会人や担任自身の進路選択についての話を聞かせる

という案が出された。人生は成功体験だけでなく、失敗や偶然の積み重ねによってつくられるということを学ばせることで、生徒が自身のポートフォリオを作成したり振り返ったりする際の視点が豊かになり、学びや経験にも価値づけできるようになるからである。そのほか、生徒の視野を広げるために、自分が挙げた興味・関心、社会課題に関連する新聞記事をシートの裏面に貼りつけるという案も出された。また、シートをA3サイズにして記入スペースを広げ、2年生3学期を通して気づきを書き込み続けられるものにする。進路は考え続けるものであるということを生徒に伝えられるのではないかとという声も上がった。

## 検討メンバーの先生に、自身の指導観や自校の生徒特性を踏まえて、ツールの活用方法や留意点などをお話いただきました

## 組織的なキャリア教育の構築が必要な時機

静岡県立伊東高校 稲葉 渉 いなば・わたる



説得力のある志望理由を書くためには、過去の経験における自分の変化を見取れるポートフォリオが必要だ。さらに、社会課題から将来の進路や高校時代すべきことを考えるためには、教師のサポートも重要だ。ポートフォリオは、経験の整理を円滑に行えるように見通しを持って作成し、それを使って教師が生徒と「なぜ」「どうして」と生き方を探究する面談を行いながら深めていきます。面談を重ねるうちに、生徒は少しずつポートフォリオに価値を見いだしていきます。また、社会とのかかわりの視点を生徒に与えるためには、私たち教師ももっと社会を知る必要があります。新聞を読み、気になった記事を切り抜き、自分の意見を書き添え、さらに関連する教科書のページを示すといった指導があつて初めて、生徒は社会とのつながりから進路を考えられるようになるのではないのでしょうか。社会課題と教科とのつながりを示すことも含めて、学校全体でキャリア教育のあり方を共有すべき時機に來ていると感じます。

稲葉先生プロフィール 教職歴22年。同校に赴任して13年目。1学年主任。地理歴史・公民科。「生徒や学校を地域など様々なものとしてつなぎながら、生徒の確かな成長を実現させたい」  
学校プロフィール 全日制/普通科/共学/1学年約1600人/2017年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、筑波大、静岡大、名古屋大、広島大などに33人が合格。私立大は、中央大、法政大、立命館大、関西大などに延べ288人が合格。





## 「何をしてきたか」からも進路を考えさせる

北海道北広島西高校 徳橋孝之 とくはし・たかゆき

生徒が自身の過去と対話しながら「将来取り組みたいこと・今取り組むべきこと」を考えるためには、ポートフォリオは非常に重要です。実際、推薦・AO入試では、進学して何を学びたいのかに加えて、高校生活で何をしてきたかを語ることが求められます。高校生活と大学での学びが、生き方としてつながるような選択が生徒にとって一番幸せであり、また、そうした志望は説得力を持つでしょう。さらに、改訂したシートに盛り込んだ「社会課題から生き方を考える」という指導は、市民教育としてもますます重要だと感じました。

本校には、長い文章を書くのが苦手な生徒が少なからずいます。そのため、本校で「志望理由シート」を使う時は、小さなサイズにするのがよいと考えています。また、指導で活用する前に教師が実際に書いてみることで、どこで生徒の手が止まりそうかが分かるはずです。複数の教師が取り組む書きにくかった箇所を学年で共有することで、指導力の向上にもつながるはずです。

**徳橋先生プロフィール** 教職歴15年。同校に赴任して6年目。教務主任。英語科。「不決断は最大の害悪。まずは前進」

**学校プロフィール** 全日制/普通科/共学/1学年約290人/2017年度進路実績(現役のみ)/国立大は、北海道教育大岩見沢校に1人が合格。私立大は、北星学園大、北海学園大、北海道大などに延べ88人が合格。短大進学15人、専門学校進学109人、就職63人。



## 思いを書き留め続けさせ、面談につなぐ

群馬県立太田高校 新井高広 あらい・たかひろ

今回、職業から大学・学部を考えるだけでなく、過去の経験を丁寧に掘り起こしたり、社会課題への関心を高めたりしながら進路を探究させる重要性を改めて実感しました。

私がこの「志望理由シート」を使う時は、「志望が具体化していない人は、迷っていること、気になっていいることを、まとまりがなくともよいのでたくさん書き出すように」と生徒に求めると思っています。「志望理由シート」も、それを経て書き上げる志望理由書も面談の材料であり、生徒を理解するための情報だからです。特に、「志望理由シート」は1回で書き上げるのではなく、その後の面談などの気づきを生徒が書き加えていけるものにしたいです。たとえシートを書き終えられなくても、考え続けることに価値があることを生徒にしっかり伝えることが重要です。また、過去の経験から志望を積み上げていくシートと、社会に対する課題意識から進路を掘り下げていくシートの2枚に分けた方が、進路探究の観点の違いが生徒には伝わりやすいかもしれません。

**新井先生プロフィール** 教職歴26年。同校に赴任して9年目。進路指導部。数学科。「正しい道を選ぶのではなく、選んだ道を正しいものにする生徒を育てたい」

**学校プロフィール** 全日制/普通科/男子校/1学年約280人/2017年度入試合格実績(現浪計)/国立大は、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、京都大などに150人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ589人が合格。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

### 指導ツールを募集しています!

「改良! 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材を検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの先生方のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①~④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒様の情報が削除されているかご確認をお願いいたします

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容(目的・活用時期・活用方法)
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21\_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時~21時)にて承ります。(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者) 上記をご承諾くださる方はご送信ください。